

東海大学大学院 2017年度 家族看護研究会



家族看護学研究室では
家族看護を様々な理論やツールを用いて分析します。

今回は、「カルガリー家族アセスメントモデル」を用いて
事例検討を行います。

事例紹介：

「90歳代の女性。胆管炎を繰り返し、看護師は急変時の方向性について家族と話し合いたいと考えているが、「死ぬ時の事なんて考えられない」と家族は拒否している。家族と共に高齢者の今後について『事前』に話し合うために、看護師はどの様に関わることが望ましいのだろうか」

プロフィール：新井 陽子(北里大学 生涯発達看護学 准教授)

2004年から北里大学大学院で、産後うつ専門研究を手がけ、2007年北里大学大学院看護学研究科博士後期課程を修了。同年北里大学看護学部に着任。周産期メンタルヘルスの諸問題やカルガリー家族看護モデルを軸にした「北里家族看護実践研究会」の活動等でご活躍されています。

2018年3月3日 土曜日

13:00～16:00

場所：大学伊勢原キャンパス 3号館1階会議室

アクセス：小田急小田原線「伊勢原駅」下車徒歩20分

バス10分(東海大学病院下車)

問合せ先：0463-93-1121(代表) 担当；井上

研究会ホームページ：<http://kazokuns.ihs.u-tokai.ac.jp>

メールアドレス：kazoku@tokai-u.jp

